

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 89号

2014/04/07 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：両市場とも週を通して下落基調も、金曜日には反発

① 最高：5月 LDN 市場£1,877 /5月 NY 市場\$2,966 (4/4) 先週比 **LDN-£6/NY-\$17**

② 最低：5月 LDN 市場£1,846 /5月 NY 市場\$2,917 (4/2) 先週比 **LDN-£24/NY-\$23**

週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£31 (傾向↑) / NY 市場\$49 (傾向↑)

週内建玉推移：LDN 市場 283,523 枚(3/28 終了時)⇒282,673 枚 (4/3 終了時) **-850 枚**

NY 市場 215,642 枚(3/28 終了時) ⇒210,352 枚 (4/3 終了時) **-5,290 枚**

【3月31日(月)】両市場とも反落＝収穫開始が圧迫

ニューヨーク、ロンドン市場とも反落した。カカオ豆の主要生産国コートジボワールで、ミッドクロープ期の収穫が始まったことに圧迫された。ただ、世界的に供給不足になるとの見通しに変わりはないという。ニューヨーク市場の5月きりは28ドル(0.9%)安の29.55ドルで終了。ロンドン市場の7月きりは19ポンド(1%)安の18.64ポンドで引けた。

【4月1日(火)】両市場とも続落＝良好な収穫見通し

ニューヨーク、ロンドン両市場ともに続落。カカオ豆の主要生産国コートジボワールで、ミッドクロープ期の収穫が概して満足のいく水準になるとの見通しが広がり、下値圧力が強まった。ニューヨーク市場の5月きりは12ドル(0.4%)安の29.43ドルで終了。ロンドン市場の7月きりは7ポンド(0.4%)安の18.57ポンドで引けた。

【4月2日(水)】両市場とも続落＝欧州の粉碎統計控え

ニューヨーク、ロンドン市場とも続落した。マーケットの注目は第1四半期のカカオ豆粉碎高統計に移っており、欧州分は来週発表される予定。あるロンドンのディーラーは、欧州の粉碎高統計について前年同期比3～5%増になるとの見通しを示した。ニューヨーク市場の5月きりは26ドル(0.9%)安の**29.17ドル**で終了。ロンドン市場の7月きりは11ポンド(0.6%)安の**18.46ポンド**で引けた。

【4月3日（木）】ロンドン反発＝ニューヨークは横ばい

ココア先物は、2年半ぶり高値からの調整を継続。ただ、市場では長期的な見通しは強気との見方が強い。欧州のトレーダーは「短中期的には利益確定による調整が予想される」と話した。

ロンドン市場の7月きりは、6ポンド（0.3%）高の1852ポンドで終了。ニューヨーク市場の5月きりは、変わらずの2917ドルで引けた。

【4月4日（金）】両市場とも上昇＝圧砕高統計を注視

ココア先物は両市場とも上昇。トレーダーらは、需要の指標となる10日発表の欧州のカカオ豆圧砕高統計を注視している。北米の同統計は17日発表の予定。

欧州ココア協会（ECA）が発表する2014年1～3月期の圧砕高は、前年同期比3%前後の小幅増加になるとみられている。

ロンドン市場の7月きりは上伸し、25ポンド（1.3%）高の1877ポンドで引けた。ニューヨーク市場の5月きりも上昇し、49ドル（1.7%）高の2966ドルで終了。

2、ナイジェリア：降雨に恵まれ南西部でのミッドクロップが好調(3/31 Dow Jones)

ナイジェリアの最大のカカオ豆生産地区では連続した雨に恵まれ、カカオ豆の供給量が上昇した。

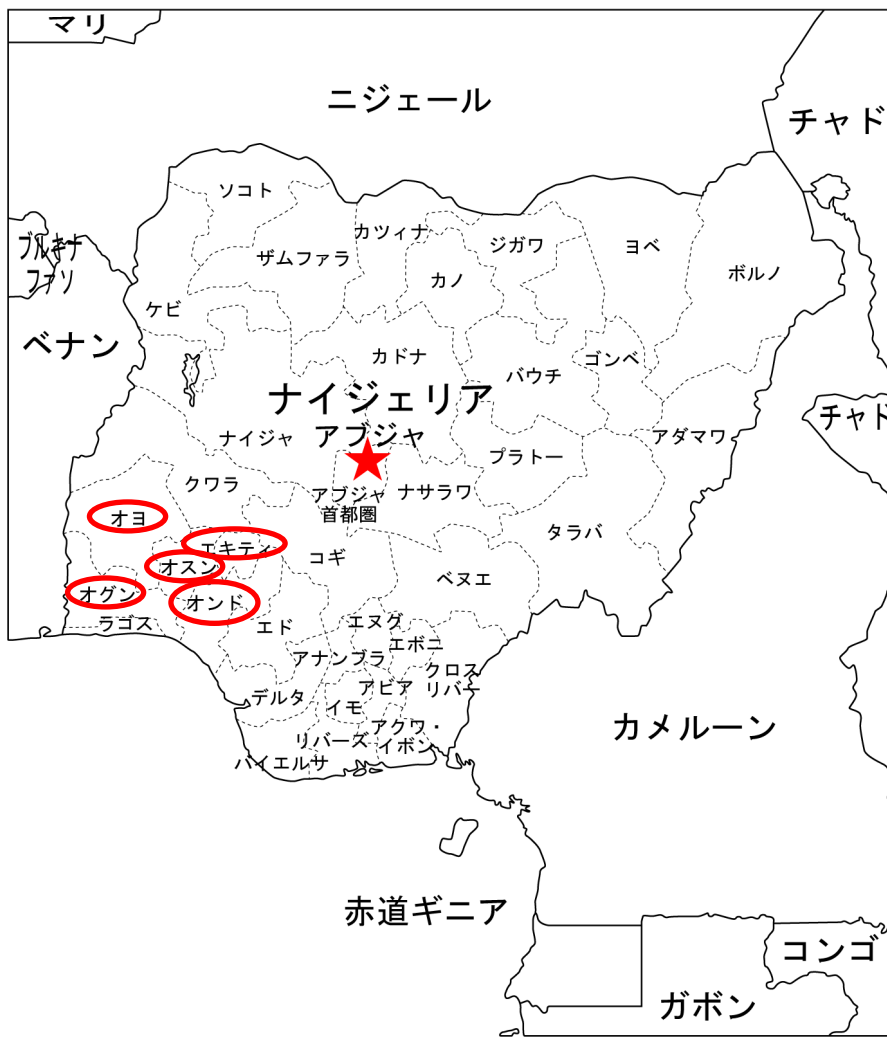
ナイジェリア・カカオ農業組合（CFAN）のメンバーは「ナイジェリアの南西部に一晚中大量の雨が降り、直近でも何度も雨が降った。こうしたここ最近の雨はミッドクロップの成長を促している。」と述べた。

ナイジェリアの南西部にはOgun、Oyo、Osun、Ondo、Ekitiという地区があり、これらの地区では、ナイジェリアで生産される年間25万トンのカカオ豆の70%を生産している。またミッドクロップは25万トンのうち30%を占める。これら5つの地区では4月上旬からミッドクロップの収穫が始まり、5～7月がピークとなる。CFANのメンバーは「これら5つの地区の広範囲で一晩中雨が降った。これはメインクロップにとって良い。そしてさらに適度な日差しがあり、カカオを適度に自然乾燥させた。」と述べた。

Oyo州の州都であるIbadanのトレーダーは今月に5トンのミッドクロップを仕入れたが、昨年の3トンと比較すると多いことを示唆した。また彼は「4～5月にはもっとたくさんミッドクロップを買いたい。今年の購入目標は50トンだ。ここ最近の降雨はミッドクロップにとって良い。ミッドクロップの市場はすでに2週間前より上昇している。」と述べた。

また他のトレーダーも「3月下旬に3トンのミッドクロップの豆を購入した。昨年は1トンであったので去年より多い。もしも雨が降り続ければ、今年の収穫量は非常に多くなるだろう。」と述べた。

*ナイジェリア地図



3、コートジ：ミッドクロップ収穫開始(4/1)

コートジボワールではカカオ豆のミッドクロップ期（4～9月）の収穫が始まった。大半の主産地に平年並みの降雨と日照があり、堅調な生産量が見込まれる。生産者とアナリストが31日、明らかにした。

同国政府は先週、ミッドクロップ期の農家出荷最低保証価格をキロ当たり750CFAフラン（1.57ドル）に据え置くと発表した。同国南部ディボ近郊の農家は「昨日は農園にいたが、カカオ豆は非常に大きくなっており、前途有望だ」と指摘。西部ドゥエクエの農家は「トラックは大量のカカオ豆を輸送し始めている。良質のカカオ豆を、太陽が適切に乾燥していることに満足だ」と語った。同国カカオ豆ベルトの中心であるスプレ近郊の農家は「土壌水分は依然として十分だ。今シーズンは大丈夫だろう。6月まで、何の問題も起こらない見込みだ」と述べた。

4、インドネシア：圧砕能力は上昇、一方で生産高は下落(4/3)

インドネシアにおけるカカオ豆の圧砕能力は、今年の終わりまでに85%上昇し60万トンになるだろう。

一方で世界第3位のカカオ豆生産国である同国の生産量は、ここ10年で最低水準になる見通しである。

インドネシアのカカオ豆圧砕能力上昇は、国内でのチョコレート需要を満たすと期待されているが、これはカ

ーギルやバリーカレボーのような企業による投資によって促進されている。

インドネシア国内での圧砕量が上昇している為、カカオ豆の生産量が追いつかず、この先数年で輸出量は減少していきだろう。インドネシア・ココア産業協会(ASKINDO)の会長である Piter Jasman 氏は「東南アジア全体で見ると、2014 年度のカカオ豆の圧砕量は 60 万トンになり、昨年の 32 万 4,000 トンからの上昇となった。」と述べた。

彼はまた「インドネシアのカカオ豆圧砕業者は年間で 12 万トンか、圧砕量の 20%のカカオ豆を輸入しなければならない。」と述べた。彼の見積もった 12 万トンは、ASKINDO の見立てより 3 万トン少なかった。

国際ココア協会によると 2013/14 期のインドネシアのカカオ豆生産量は、2%減少し 41 万トンになる見込みである。ASKINDO の 2014 年度の生産高予測は、6%減少し 42 万 5,000 トンである。供給サイドから見ると、インドネシアのカカオ産業は 2020 年までに 3 倍の生産量になるという。

政府がカカオ産業の回復の為、3 億ドルの資金を投入しているにも関わらず、いまだに農家は悪天候によってもたらされる cocoa pod borer の様な病気と闘っている。

インドネシアの主要な圧砕業者である PT Bumitangerang Mesindotama (BT COCOA) の CEO の Jasman 氏は「国内のカカオ豆農家は 48 万トンしか生産していない。これゆえ、現状 5%の輸入税を廃止する為、我々はサポートしているのだ。」と述べた。

*cocoa pod borer にかかったカカオの実



5、ガーナ：CHEMICO 社、政府の殺虫剤・肥料散布プログラムを補佐する(4/4)

CHEMICO Ghana 社は政府が推進する CODOPEC (Mass spraying)事業を補佐することを目的とした Chemico Akuafu プロジェクトを開始させた。Mass spraying により多くの農家がカカオ製品に悪影響をもたらす病気や害虫に殺虫剤スプレーを噴射することができるようになる。

また、新たな取り組みに、カカオ農家としてまだ新しく、これから農業や経営について教育を受け、農業ビジネスで最大限の利益を得ようとしている農家に対して「Hi-Tec cocoa Input」の使用を促すことを目的としたものがある。農家はより改善された肥料である「Cocoa feed Plus Granular」「Cocoa sett Foliar」を紹介された。CHEMICO はガーナにおいて 100 万トンのカカオ豆の生産を達成させるという目標に向けて大いに貢献するだろう殺虫剤や肥料を生産している。これらの殺虫剤や肥料は国際的に広範囲で許可されている。

ガーナのカカオ・コーヒー・シアナッツ農業組合(GCCFA)の Alhaji Alhassan Bukari 氏は GCCFA と CHEMICO の 2 つの団体による、より強力な団結を求めた。

*Mass spraying の様子



6、欧州：第 1 四半期の圧砕高は消費に下支えされ上昇か(4/4)

アナリストやトレーダーによると、欧州の第 1 四半期のカカオの圧砕量は消費の増大に下支えされ適度に上昇することが期待されている。

欧州カカオ協会(ECA)は 2014 年の第 1 四半期の圧砕量は昨年比で 3%増加すると見込んでいる。

ECA は「2013 年には加工賃が安かった為に、圧砕業者が製造を嫌煙し圧砕量が 3%減少した。ちなみに 2013 年第 1 四半期には 33 万 9,377 トンのカカオ豆が加工された。」と発表した。

その後の第 2、第 3、第 4 四半期の圧砕量は、コンスタントに上昇してきた。

仲介業者の Marex Spectron の農業部門の暫定的なトップである Jonathan 氏は「昨年は我々の全員が、北部欧州、北米の消費が予期せずとも回復を見せたことで、ある程度圧砕量の回復への確信を得た。」と述べた。

また彼は「今は、回復の期待ができる地域が南部欧州や昨年あまり伸びていなかった地域へ変わった。これによって圧砕高が上昇するだろう。」と述べた。

期待される圧砕高は 1.5~5%となるだろう。欧州のトレーダーは「もしも 5%の上昇となれば、カカオ豆の市場価格はトンあたり 50 ポンド上昇するだろう。」と述べた。直近の 6 月きりの価格は 1851 ポンドである。

トレーダーは「消費が回復してもなお、世界的にカカオ圧砕能力がまだ過剰であるにも関わらず、2013年の第1四半期以降の加工賃はある程度改善されてきた。」

「ここ数年は圧砕業の設備が過剰であり、圧砕業者は彼らが求めている利益を得ることがかなり難しくなっている。しかしそうはいつでも、加工賃は確実に回復してきている。」と Perkman 氏は述べた。

カカオの圧砕業の利益はココアレシオに連動している。ココアレシオはカカオ豆の価格に比例して決まるココアバターとココアパウダーの販売価格に基づいている。

欧州のトレーダーは「ココアレシオは改善されてきたが、依然として設備と加工能力が過剰である。」と述べた。

世界最大のチョコレートメーカーであるバリーカレポーは、上半期において利益が増大し、売上は自社で3.1%増となったと公表した。ペトラフーズを買収したことも考慮すると17.6%の増加となった。

スイスのチョコレートメーカーのリンツは、欧州、米国、アジアで高級チョコレートに対する需要が高まったことで今年の売上や利益が増加することを公表した。同社は長期目標である6~8%の売上増を確信している。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp